

転倒、転落事故

 <ol style="list-style-type: none"> ① トイレからの移動時、転倒 ② 本人の緊張と職員とのバランスが取れていなかった。 ③ 慣れない間は2名での介助。本人の緊張がほぐれるまで待つ。 	 <ol style="list-style-type: none"> ① ホール誘導時、転倒 ② 誘導のペースが合わなかった。 ③ 利用者一人ひとりに合ったペースで促していく。 	 <ol style="list-style-type: none"> ① 車乗り込み時の段差による転倒 ② 利用者が乗り込む時の声かけが不充分。 ③ 乗り込み、降車の際に利用者にしつかりと伝わるよう伝えていく。
 <ol style="list-style-type: none"> ① 肘付きイスから発作による転倒。 ② 発作時に利用者から離れていた。 ③ 必ず職員が側に付き添う、目の届く位置にいる。 	 <ol style="list-style-type: none"> ① 歩行中の利用者がつまづく ② 介助者が利用者との距離感をつかめていない。 ③ 歩行介助時は利用者までを含めた距離を把握する。 	 <ol style="list-style-type: none"> ① 運動中の転倒 ② 利用者の多い場所での活動への配慮が出来ていなかった。 ③ 人の集まる場所での活動時、展開の工夫、人員配置の調整
 <ol style="list-style-type: none"> ① 玄関に走り出し、入口で転倒 ② 突発的な行動に対応が遅れた ③ 利用者の行動特性を理解し、予測を立て事前に対応する 	 <ol style="list-style-type: none"> ① ホール活動中の転倒 ② 利用者の緊張が解けていない状況で促しを行った。 ③ 利用者の体制が整うまで待ち、基本的には2人介助を行う 	 <ol style="list-style-type: none"> ① 外に出た際、段差につまづく ② 利用者の足元への注意が欠けていた ③ 歩行支援中は小さな段差、傾斜にも充分注意をし、支援を行う

 <ol style="list-style-type: none"> ① 椅子に座っていた利用者が左に傾き転落する ② 姿勢保持が出来ない利用者から目を離れた。 ③ 原則は利用者から目を離さない。やむ負えず離れる際には他職員へ応援を求める。 	 <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者同士の接触 ② 廊下で利用者同士がすれ違う際、体がぶつかり転倒 ③ 混雑する場所では周りへの環境を整えて歩行支援を行う。難しい場合は一度立ち止まり、安全を確保して誘導を行う。 	 <ol style="list-style-type: none"> ① 椅子に座ろうとした際、転倒する ② 職員が側にいない時に自ら椅子に座ろうとし、転倒する ③ 一人では他の事に気を取られやすい利用者に関しては職員が側に付き添い、本人と一緒に確認をしながら促す
 <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者が他利用者を椅子に座らせようと手を引き、転倒 ② 利用者同士のやり取りの中で職員の介入なしで行った。 ③ リスクがあるやり取りは利用者のみでは行わない。 		

平成 20 年度～21 年度までの転倒、転落事故の代表的な内容を写真に挙げています。今後も起こりうる事故の例となりますのでみなさんで振り返りに使ってもらえればと思います。

①事故状況 ②事故要因 ③対策